

道徳学習指導案

指導者 櫻田 仁美

- 1 日 時 平成24年11月 1日 (木)
- 2 学 年 第2学年1組 21名 [2年1組教室]
- 3 主 題 名 家族の役に立つ [4—(3) 家族愛]
- 4 資 料 名 「とつぜんの 雨ふり」 <一部改作>
(出典「2年生のどうとく」文溪堂出版)

5 主題設定の理由

- 家族は、人が生まれながらにして所属する最も基本的な集団である。児童は、家族の生活の場である家庭において、家族に愛され、大切にされながら育てられる。家庭は、児童の人格形成の基盤とも言えるものであり、家庭で身に付いた道徳性が、他の人や他の集団とのかかわりにおいて生かされる。家庭における家族一人一人についての理解を深めることは、父母や祖父母を敬愛する心を一層深める。また、家族との様々なかかわりを通して、家族の中での自分の立場や役割を知ることになる。そうして、家族の一員として積極的に役に立とうとする精神が芽生え、家族のために役に立つ喜びが実感できるようになる。このような家族や家庭を愛する心の指導が大切である。

この時期の児童においては、日頃の父母や祖父母の様子を知ることから敬愛の念を育て、家の手伝いなどを行って積極的に家族と関わり、家族の一員として役に立つ喜びを実感できるように指導していくことが重要である。その際は、多様な家族構成や家庭状況があることを踏まえ、十分な配慮を欠かさないようにする。

- 本学級の児童は、半数が「家で何らかのお手伝いをしている」と答えている。その内容としては、食器を運ぶこと、郵便受けから新聞をとること、肩もみ、料理の手伝い、洗濯物を干したりたたんだりすること、お風呂掃除などであった。とりわけ休みの日にお手伝いをするという児童が多い。日記に、料理の手伝いとして、卵焼きを作ったことやお菓子作りをしたことなどを書く児童もいる。「家族が喜んでくれるのが嬉しい」「自分がお母さんのためになれて嬉しい」とほめられたり喜んでもらったりするから手伝いをする児童は多い。一方で、家族の役に立つ喜びを実感する児童もいるが、そう多くはない。

また、自分から進んで手伝いをする児童がいる一方で、頼まれたから手伝うという児童も多い。「本当はやりたくなかったけれど、やらないと怒られるからやる」「兄弟で一番上だから、やらざるをえない」というように、まだ自主的に手伝いをするところまでは達していない。また、特に手伝いをしていない児童も半数いる。習い事等で、あまり手伝いをする時間がないという児童もいるが、特に手伝いをしようと思っていない。家のことは家族にやってもらって当たり前という意識が強いためである。また、手伝いをして家族に喜ばれた経験、家族のために自分が役に立てたという喜びを実感する経験が少ないことが考えられる。

- 本資料「とつぜんの 雨ふり」は、主人公あきおが、初めはいやいやお使いを頼まれたが、最後には家族のために役立てた喜びを実感する話である。大好きなテレビ番組を見ているあき

おに、おばあちゃんがおじいちゃんとお母さんのために駅まで傘を持っていくよう、お使いを頼む。はじめは断るあきおだったが、おばあちゃんの言い分を聞き、しぶしぶ出かけることにする。駅へ向かう途中、風邪気味だったおじいちゃんのことを心配になり、雨の中を走り出す。駅ではおじいちゃんとお母さんのうれしそうな様子を見て、よかったとあきお自身もうれしくなった。

指導にあたっては、主人公のあきおの気持ちに共感させながら学習を展開する。資料提示においては、場面絵を用いて状況把握がしっかりできるようにする。中心発問においては、家族のために役立つことの喜びについてしっかり考えられるようにする。その際、おじいちゃんとお母さんに元気よく傘を差し出すあきおの様子を、吹き出しにしてワークシートに書かせることで、あきおの気持ちになって考えられるようにする。ワークシートに書かせた上で話し合い活動を行い、導入で話し合った、家でしている手伝いについて触れながら、家族に喜ばれたときの気持ちについて話し合う。そして、終末で家族からの手紙を読み、家族のために役立つことをしようとする気持ちを高めさせる。

6 準備物

場面絵 登場人物の絵 ワークシート 家族からの手紙

7 ねらい

- 元気よく傘を差し出したときのあきおの気持ちを話し合うことを通して、家族の役に立ててよかったという喜びに共感させ、家族のために役立つとうとする道徳的心情を育てる。

8 本時のポイント

元気よく傘を差し出したときのあきおの気持ちについて、児童が自分の考えをもち、その考えをより深めることができるようにするために、ワークシートを活用する。そして、ワークシートに書かせた上で話し合い活動を行い、友達の多様な考えに触れることができるようにする。

9 指導過程

段階	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
導入	1 家で手伝った仕事や、家族のためにしている仕事について話し合う。	○家でどんな手伝いをしたことがありますか。 ・ 晩ご飯を食べるときに、家族の皆の食器を並べている。 ・ 朝、新聞をとってきている。 ・ お母さんと一緒に料理をしている。 ・ お父さんの肩もみをしている。	○ ねらいとする価値への方向付けをする。 ○ 家での手伝いや、決まった役割などを想起させる。

2 資料「とつぜんの 雨ふり」を聞いて話し合う。

○口をとがらせたまま家を出たあきおは、どんな気持ちだったでしょう。

- ・ もっとテレビを見ていたかったのに。
- ・ おばあちゃんが行けばいいのに。
- ・ どうしてぼくが行かないといけないんだろう。

○傘を抱えて走り出したあきおは、どんな気持ちだったでしょう。

- ・ おじいちゃんの顔色が悪かったから、心配だな。
- ・ まだ駅に着いていないかな。ちょっと急ごう。
- ・ 待っててね。おじいちゃん、お母さん。

◎元気よく傘を差し出したあきおは、どんな気持ちだったでしょう。

- ・ おじいちゃんにもお母さんにも喜んでもらえたからよかった。うれしいな。
- ・ おばあちゃんのお使いをしてよかった。
- ・ 家族の役に立てるって気持ちがいい。これからも、家族が喜ぶようなことをしたいな。

○ 状況を把握しやすいように、場面絵を使って部分提示をしながら進める。

○ 好きなテレビ番組を見ていたため、傘をもっていくことに乗り気でないあきらの気持ちに共感させる。

○ 家を出たときに比べ、だんだん心配になってきたというあきおの気持ちの変化をとらえさせる。

○ ワークシートに書く活動を取り入れ、自分の考えをもたせやすくする。

○ 家族のために役立つことの喜びについて共感させる。

○ はじめに嫌だなあと思っていたあきおと、最後によかったと思ったあきおの気持ちの違いについて話し合う。

展開後段	<p>3 これまでの自分の生活を振り返り、家族の役に立ててよかったと思うことを話し合う。</p>	<p>○家でどのようなことをしたとき、家族に喜ばれましたか。また、そのときはどんな気持ちでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お母さんの料理のお手伝いをしたよ。「上手だね。」と言ってもらえてうれしかった。 ・ 玄関を掃いたとき、お母さんに「ありがとう。」と言ってもらえてうれしかった。 ・ お風呂掃除をしたよ。「○○のおかげできれいになったよ。」と家族に言ってもらえて、またがんばろうかなと思ったよ。 	<p>○ 導入で話し合った、家でしている手伝いについて触れながら、家族に喜ばれたときの気持ちについて交流する。</p> <p>○ 家族に喜ばれたときの経験を振り返り、これからは家族のために役立つことをしようとする気持ちを高めさせる。</p>
終末	<p>4 家族からの手紙を聞く。</p>		<p>○ 家族の思いを知り、家族の役に立つことをしたいと感じられるように余韻をもって終わらせる。</p>